第 2 回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議　議事要録

日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）
午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
場所：浜松市役所本館 5 階　庁議室

1　開　会

浜松市企画調整部長　山名

　ただいまから、第 2 回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議を開会します。本会議の座長を務めます浜松市長から、ごあいさつ申し上げます。

浜松市長

　皆さん、こんにちは。本日はご多用の中、会議に参加をいただきまして、誠にありがとうございます。今回は 2 回目の会議であり、皆さんにお集まりをいただき、平成 27 年度事業の検証、28 年度事業の進捗の確認、29 年度に向けた意見交換を予定しています。意見交換のテーマについては、施策の優先順位、女性の活躍促進、浜松独自の魅力を活用した取り組みの 3 つのテーマで、皆さんからご意見をいただきたいと考えています。

　限られた時間ではありますけれども、ぜひ積極的にご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

2　平成 27 年度事業の検証について

3　現状の取り組みについて

浜松市企画調整部長　山名

　それでは、議事に入ります。次第の 2、3 につきまして、事務局からご説明させていただきます。

浜松市企画調整部次長　松永

　事務局からご説明させていただきます。

　資料 2 をご覧ください。平成 27 年度事業の検証についての資料です。前回会議でもご説明しましたが、本市の総合戦略は平成 27 年 12 月に策定しました。このため総合戦略に基づく評価の対象は本来であれば今年度の施策からということになりますが､平成 27 年度は、平成 26 年度の国の補正予算で、「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）」の交付を受け、事業を実施しました。今回の検証作業の対象事業となるのは、資料 2 に記載している No.1 の「はままつ起業家カフェ運営事業」から、№14「MICE 推進事業」までの 14 事業となります。この交付金を活用した事業は、国から外部有識者の方の評価を求められています。

資料の構成ですが、基本目標ごとに事業の名称、指標（KPI)、目標値と実績値などのほか、実施概要を記載しています。

例えばNo.1のはままつ事業家カフェ運営事業では、実施概要には、独立・起業に関心のある人や創業希望者を対象にしたワンストップ型の創業支援窓口を開設し、相談・アドバイス・創業セミナーなどを実施と記載があり、その指標は新規の創業者数、創業支援者数となっており、それぞれ目標値を100社、1,000人と設定しています。実績値はそれぞれ120社、2,596人であり、目標に対して実績値が上回っていることがわかるようまとめています。

14の事業のうちの12の事業については、実績値が目標値を上回っていますが、実績値が目標値を下回った事業、矢印が下を向いている事業についてご説明させていただきます。

№7産業イノベーション推進事業（成長産業創出支援事業）ですが、実施概要は、成長6分野に関する新技術・新製品の開発を行い、事業化を目指す市内の中小企業者に対する補助をしているものです。指標は、製品試作件数を15件、第1次試作件数を5件と設定していましたが、実績値は13件と3件ということで、矢印が下を向いています。

申請事業内容を精査した結果目標件数に満たなかったという一方で、1件あたりの支援を強化することができたという、評価にはなっています。また、今年に入りまして周知の方法を強化したところ、事業申請数が増えていることを併せてお伝えをさせていただきます。

もう1つ、No.10中心市街地活性化推進事業（中心市街地無料無線LAN整備事業）は外国人観光客や来街者の利便性向上のため、中心市街地の飲食商業施設などが行う無料無線LAN設置に係る経費の一部を補助したものでございます。指標については、無料無線LANの新規設置箇所数を100件と設定していましたが、実績値は38件でした。

これにつきましては、当初個店からの申請を想定していましたが、面的整備の申請があり、1件の申請で多数の個店を含むエリアをカバーできました。平成27年度事業の検証については以上です。

続きまして、資料 3 をご覧ください。この資料は今年度の戦略計画から、総合戦略に係る部分を抜粋したものです。委員の皆さんは設定した指標、目標値に向けた進捗の状況などをご確認ください。

5ページ以降で総合戦略の基本目標達成に向けた44の施策について掲載をしています。

7ページをご覧ください。基本目標ごとに施策を構成する主な事業の指標と基準値をお示し、平成31年度の目標に対する達成状況が分かるように、平成27年度の計画値と実績値、28年度の計画値を記載しています。関連する事業は199あります。産業イノベーション推進事業には1事業と記載がありますが、例えばウの農林水産業の6次産業化などの推進では、5事業が含まれていますので、44施策の中に199の事業が含まれています。

Ⅰ-1（1）ア「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援の産業イノベーション推進事業、これを例にご説明します。従業員 4 人以上の事業所の粗付加価値額を指標に設定しており、基準値は7,385億1000万円、平成27年度の計画値は8,757億5000万を見込んでいましたが、実績値としては7,537億2000万円となっています。さらに28年

度は 8,845 億円を計画値として設定しています。最終的な目標値は 9,295 億 3000 万円と設定しています。

ページの下段には、平成 28 年度の主な取り組み内容を記載しています。この中から新たな取り組みや浜松の特長を反映した取り組みなどをいくつかご紹介させていただきます。

7 ページでは、楽器産業の振興を図るために、11 月に東京で開催される楽器フェアへの出展を行う予定になっています。それから東京オリンピック・パラリンピックに向けて、天竜材のブランド化を推進するためのジャパンホームショーへの出展、海外輸出の可能性検証などに取り組んでいます。

8 ページでは、ベンチャー企業の誘致や UIJ ターン就職促進を目的とした首都圏ビジネス情報センターを東京都千代田区に開設しました。

10 ページをご覧ください。Ⅰ-2 労働供給力の開拓では、地元企業 10 社による東京での就職面接会を 7 月に実施しました。働きたい女性への支援としてフルタイム希望者とパートタイム希望者に分けた、2 タイプのセミナーを開催します。これは 7 月から「はままつ女性応援プロジェクト」という形でスタートしています。

11 ページをご覧ください。Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援では、出会いの場をつくることを目的に婚活イベントを予定しています。

12 ページをご覧ください。待機児童解消に向けた放課後児童会の定員増、年齢対象の拡大、時間延長などへの取り組みを実施しています。

13 ページをご覧ください。Ⅱ-2「創造都市・浜松」を担う次代の育成では、子どもの学力向上を目的として小中学校へタブレットを導入しています。

14 ページをご覧ください。Ⅲ-1 安全・安心なまちづくりでは、防潮堤の早期実現に向けた土砂搬出を実施しており、静岡県が平成 31 年度末の完成を目指しています。

15 ページをご覧ください。Ⅲ-2 にぎわいの創出では、本市を訪れる人を魅了する直虎プロジェクト、浜松観光圏の推進に関する取り組みを進めています。

16 ページをご覧ください。中山間地域振興として、アワビ陸上養殖などの研究、実証試験を行っています。また、小型無人機ドローンの活用環境整備も行っています。

17 ページをご覧ください。Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成では、多文化共生に向けた取り組みとして、多文化共生センターや外国人学習支援センターでの事業の実施をしています。健康寿命延伸に向けたロコモーショントレーニングの推進を実施しています。

18 ページをご覧ください。Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくりでは、コンパクトシティの実現に向けて、立地適正化計画の策定に向けた取り組みなどをしています。

そして総合戦略の大きな目標として、合計特殊出生率を 2025 年までに 1.84 にし、2035 年までに 2.07 とする。社会移動に対して、2020 年までに東京圏との社会移動を均衡させるという 2 つの目標がございます。平成 27 年の浜松市の合計特殊出生率は 1.49 となっています。平成 26 年は 1.44、平成 25 年は 1.47 であり、若干ですが回復をしています。全国平均は、平成 27 年が 1.46 となっています。

それから社会異動ですが、平成 25 年の浜松市の社会増減は、411 人の転出超過となっています。平成 26 年は 390 人、平成 27 年は 304 人といずれも転出超過となっています。東京圏との比較では、平成 25 年は 817 人、平成 26 年は 950 人、平成 27 年は 1,063 人の転出超過が大きくなっています。静岡県内から浜松市に入ってくる転入超過の傾向が増加していますので、これによって全体での転出超過が縮小している状況です。

社会移動の変化については、東京圏との均衡を図るという目標に対し、残念ながら現在は転出超過が進んでいる状況になっています。

私からの説明は以上でございます。

浜松市企画調整部長　山名

ただいま大きく 2 つの内容について、ご説明させていただきました。

資料 2 が平成 27 年度の事業の検証ということで、目標値、実績値共に確定をしているもの。それからもう 1 つが実質的な地方創生の初年度である今年度の取り組み状況についてご説明した資料 3 の戦略計画 2016 の抜粋です。したがいまして、資料 3 は実績値が入っていないものもあります。平成 27 年度、28 年度ということで、分かりにくい点があろうかと思いますけれども、何かありましたらまた、ご質問をお願いします。

ここからは、委員の皆さまからご意見をいただく時間とさせていただきます。前回は自己紹介ということで進めさせていただきましたが、会議では多くのご意見をいただきました。そうしたご意見を基に進めさせていただきたいと思います。

先ほど市長のあいさつにもありましたとおり、前回の会議では、施策の優先順位を付けたらどうか、2 点目として女性の活躍促進というところを重視したらどうか、浜松独自の魅力を活用した取り組みを進めたらどうかといった 3 点のご意見を多くいただきました。したがいまして、本日はこの 3 点を中心にご意見をいただきたいと思います。

限られた時間ですので、各テーマ 20 分程度で次に進めさせていただきたいと思います。

まずは「施策の優先順位について」ですが、総合戦略では地域資源を活用した魅力的な雇用の創出を基本目標の I に掲げています。最重点と考えていますが、総合戦略全体を俯瞰して、どのような施策を重点的に取り組むべきかという観点から皆さまのご意見をいただきたいと思います。できるだけ多くの皆さんからご意見をいただきたいと存じますので、質問などを含めよろしくお願いします。

村松尋代委員

説明していただきました優先的に取り組むべき施策について、資料 3 の中から 3 点、意見を申し上げます。

7 ページ、地元産業力の強化のところですが、(1)アの②のところです。新技術・新製品開発などの事業化件数ですが、ここは計画値より実績が上回っています。これは開発に関しての件数だけの評価ではなく、金額や今後の成長性も評価する指標に重点を置いてもいい

と思います。事業化して継続性があり、今後の成長を見込めるものとしての評価も必要と感じていますので、その点も踏まえた評価にしていただきたいというのがまず 1 つです。

12 ページの、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の(3)イ、地域子育て支援拠点延べ利用者数です。ここも数字を比較すると計画値と実績値に差がありますので、元々の計画値を見直すのか、達成しない理由が何だったのかを検討していただきたいと思います。支援拠点をつくる方向性も、数より質が問われているのではないかと思うので、内容をもう一度改めていただきたいというのが 2 つ目です。

もう 1 つが 15 ページです。Ⅲ-2 にぎわいの創出(2)交流人口の拡大ですが、計画値が達成されています。さらに人を呼ぶために、安心・安全なまちづくりは必要不可欠ですが、私はインフラあっての観光と申し上げたいと思います。

また、ほかに防災対策だけに捉われなく、インフラ整備が大変必要になってきますので、これからインフラに関わるさまざまな企業などと行政との間でネットワークを結んで、市民にとって最もいいインフラが享受できる環境をつくることを、まずしていただきたいと思います。

浜松市企画調整部長　山名

ありがとうございます。

計画値と実績値、計画値の設定の仕方、実績値の評価の仕方などについてご指摘をいただきました。これらについては、評価が行動指標なのか、それとも成果指標にしていくのかという議論があります。事業の性格上、指標設定がしやすいものとそうでないものがありまして、指標をどのように設定するか非常に悩むところですが、今回はお示ししたもので指標設定させていただきました。いただいた意見を参考に、今後はそうした指標の設定の仕方について検討をしていきたいと思います。

山本敏博委員

前回、プライオリティの話も申し上げましたが、人口減少と女性の活躍について、しっかり計画できてきたけれども、合計特殊出生率にしても 1.44 を 1.84 まで上昇させるという目標に対して、原因分析とそれに基づく事業計画がなくてはいけません。

日本の場合には 2.07 まで上昇させなくてはいけないとなっても、それはとても不可能な話というのは、みんな分かっているわけです。そこをもう少し具体的に、なぜこうなったのか。こういうふうにしたらこうなるというのを、具体的な計画値をいただきたいと思いました。これはすべてについて言えます。

浜松市企画調整部長　山名

昨年、人口ビジョンを策定して、その上で総合戦略をまとめました。今までの人口の動き、動態等を参考に、出生率等を計画値として挙げたものですが、なぜそうなったかとい

うのは委員ご指摘のとおり、分析は必要であると思います。

山本敏博委員
分析がないと次にこうしたほうがいいというのが、出てこないと思います。ぜひお願いしたいと思います。

村田亜希子委員
この課題をいただいて、いろいろな視点から考えてみようと思いました。私自身が子育て中の母親であり、娘であり、孫であり、社会人であり、妻でありといろいろな立場で今回のこの目標と施策を見ると、どれもその立場によって優先度があり、どれも大事であると感じたのが正直なところです。
ただその中で、評価の仕方が縦割りであると感じました。事業が部署によって割られており、その中の計画であり評価でありというところに、感じるところがありました。視点として総合計画の基本構想を未来デザイン会議で一緒に携わらせていただきましたが、そのいちばん大きな目標が「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」ですよね。そしてキーワードが創造都市と市民協働とひとづくりという、これがすべての基本であり、浜松市が掲げる目標だと思います。創造都市に向けて、市民協働という方法で、ひとづくりを進めていくということで、この 3 つのキーワードを決めたと思います。この総合戦略の評価の視点の中で、この「ひとづくり」というのが、全体的な視点として、横展開があると分析や評価もできたりするのではないかと思いました。

浜松市企画調整部長　山名
施策の優先順位についてご意見をいただいているかと思いますので、総合計画の中での基本的な考え方というのは、当然優先されるべきことです。こうした観点からも分析などをしていければと思います。

岡部比呂男委員
基本目標 I 若者がチャレンジできるまちに、はままつ起業家カフェの状況、実績が載っていて、ものづくりの新しい産業創出や価値を上げるということが、両方とも一丁目 1 番地に書かれています。起業家カフェと言えば、目標値をかなり上回った相談が来ているのですが、カフェのコーディネーターの方にお話を伺うと、あるいは数値を見ると、サービス業の相談がかなり入っていると聞いています。実際にお店を開業するのも、サービス業がかなり多いと聞いています。外から入ってきて、しかも雇用を生み出すような新しいものというよりは、ネイルサロンであるとか、ちょっとしたやりたいことを自己実現のために相談にみえたという方がどちらかと言うと多いそうです。相談はもちろん役に立っているのですが、コーディネーターの方からするともう一歩外から、こういう仕事を興したい

という人が来て、しかも大きく広がって雇用につながるという展開も期待しているそうです。金融機関も相談に入って膨らましていくというような案件よりは、自己実現にとどまっている案件が多いというのは、実際にコーディネーターの方から伺っています。

相談の量は多く、自己実現のために起業することは大事なことなのでやればいいと思います。相談の質を高める取り組みも必要であると考えます。少し前に新聞の記事で、市長と浜松でベンチャー企業を企業した方の懇談の場で、彼らが浜松を選んだそれなりの理由が明確にあるようです。そうした方の意見では、浜松は地の利、環境、いろんな支援もあり、いいところだとおっしゃっていたそうですので、来た方はたぶん満足されているのでしょう。もう少し外に向かって情報発信して、浜松はこういうところだぞというのを見せ、成功事例をもっと表に出すことから、新しい創業希望者を集めてくるという活動をするとこの起業家カフェはもっとうまく活用できるのではないかと考えています。

浜松市企画調整部長　山名

一丁目１番地というお話をいただきました。確かに今回の人口減少対策の中で、本市への社会移動を促すための取り組みは非常に大きな課題です。岡部委員からいただいたような、社会増につながる施策、ご提案などを市のほうにもお寄せいただきたいと思っています。そんな観点からもまた、ご意見をいただきたいと思います。

林寛子委員

最優先施策について具体的に 1 つとかいうのはすごく難しいです。例えば先日の東京都知事選後のアンケートでは、知事に期待する政策の第一は待機児童の問題など、子育て支援でした。これは東京の特殊性ではなく、今は日本のどこでも子育て支援というのが喫緊の課題で、市民の側からはニーズがあるのではないかと思います。

それで産業を振興すれば、人がそこに集まって子どもも増えるだろうという考え方もある一方で、子育てしやすいまちにすることで、人が集まりにぎわいが生まれ、新たな産業が生まれるだろうという考え方もあると思います。どちらが先かというのはすごく難しいのですが、いまの時代の優先順位としては、例えば結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、子育て世代を全力で応援するというのは、かなり優先されていいのではないかと思います。

そうすると全体を貫くものとして、産業にしても農林水産業とか、これまであまり日の当たらなかった天竜材をもう 1 回見直すという取り組みや、一方で女性の活躍によって働き方を見直すことなどが必要になってくると考えます。全体をくくるものとしては、今までよりも足元に近いぬくもりの感じられるというか、見やすい産業であり、施策であり、働き方でありというような方向への転換というくくり方ができると思います。産業についてもぬくもりのある産業というキーワードでつなげていくこともできるのではないでしょうか。全体の方向性のようなものをイメージとして提示できれば、優先順位もおのずと見

えてくるのではないかと思います。
　何となく今までの産業というと、硬いものとか男性的なものというイメージがあったわけですけれども、それをちょっと柔らかい温かい女性的なものも入れ込んでいくというようなことで、抽象的な言い方になりましたけれども、優先順位の考え方としてどうかと思います。

企画調整部長　山名
　今回意見交換のテーマを3つ設定させていただいて、2番目の女性の活躍促進というところとも密接に関わるご意見かと思いますので、またそうしたご意見もいただければと思います。

山本敏博委員
　この会議では女性の活躍推進や住みやすさなど、方向性を中心に10項目程度を決めようという会議で、その後、一つ一つどのように実現しいていくかというのは、別の会議なのか、行政の担当部署が考えて、それを施策として予算も付けてやっていくという認識でいいですね。

企画調整部長　山名
　本日は、平成27年度の取り組みに対して、評価をいただくことが1点です。もう1点は、今後の方向性についての意見交換です。細かな事業などについては、いただいたご意見を参考に、所管課で取り組んで行かなければいけないものなどについて検討して進めて行くという位置づけです。

山本敏博委員
　リーフレット（総合戦略の概要版）に記載してあるように、優先順位については今までの議論を集約して決まったので、この優先順位でいいのではないかと思います。

企画調整部長　山名
　ありがとうございます。

杉田光秀委員
　平成27年度の評価という点について言えば、資料2に記載されている項目で総じて答えが出ています。おおむね目標は達成しています。
　では、おおむね達成した目標が正しかったかどうかという検証が必要だと思います。目標をどこに設定するかというのは極めて重要で、自然体でいく目標もあれば、かなりの努力をしなければいけない目標もあります。目標に行かないところでPDCAというのは必ず

回るわけであって、目標を達成してしまったら、そこで PDCA は止まるということです。例えば平成 27 年度の目標を振り返った場合に、その目標を振り返って、28、29、30 年度の目標を変更していくという作業が、あってしかるべきではないかと思います。

このため、目標の設定方法を見直して、今後の目標が正しいのかどうか、頑張って達成できるところにゴールがあるのかどうかを、検証するべきだと思います。

髙橋正典委員

人口ビジョンに地元の産業力強化として、仕事のないところに人は集まらないと記載されています。それが一番重要であると思っていますが、違う観点で、大河ドラマ、ラグビーワールドカップ、東京オリンピックのキャンプの候補地として人を集めることができると思います。こうした観光面での追い風を、産業の強化につなげられるようなものを入れられないかと思います。

先ほど東京への転出超過が多いという説明の中で、分析が必要であると山本委員からお話があったように、例えば高校生が行ってそのまま戻ってこないのか、就職している人が東京の企業へ転職してしまうのか、そういった状況が分かると、もう少し対策も見えてくるのではないかと感じました。

浜松市企画調整部次長　松永

最新の平成 27 年の数字も出ております。人口ビジョン策定の過程で、20 代、30 代の東京転出の傾向が強くなっていることがわかっています。女性の場合は、高校から東京へ進学して、そのまま東京圏に残ってしまう。そして男性の場合は卒業後に戻って来ますが、最近の傾向では、男性も新たなチャレンジ、チャンスを見つけるために 20 代、30 代でもやはり東京圏へ転出する傾向があります。また女性も同じく、一度帰ってきたけれども、また転出してしまうという傾向があると数字としては出ています。

2020 年までに、東京圏との社会移動の均衡を保つということで、大きなハードルではありますが、目指そうとしているところです。

浜松市長

個別に追跡はしているか。

浜松市企画調整部次長　松永

昨年、実際に浜松に居住経験があり、現在は三大都市圏にお住まいの方を対象に、Web 調査を実施しています。

浜松市企画調整部長　山名

次のテーマです。女性の活躍推進について、ワーク・ライフ・バランスの推進ですとか、

子育て支援の充実など、様々な観点があると思います。評価とともに、ご意見、ご提案などあればお願いします。

村田亜紀子委員

女性の活躍ということで、私のまわりで働いている女性や母親がたくさんいるので、「女性の活躍ってどう思う？」と聞いてみました。特にこの女性は活躍しているという友人に話を聞いてみたのですが、その人たちは全員「女性の活躍って何？」という反応でした。世間で騒がれているほど、当事者はその活躍に実感がないというのが正直なところのようです。

次に「女性の活躍についてのイメージは？」と聞くと、例えば管理職に女性が就いているとか、地域の重要なポストに就いているとか、そのようなイメージを持っていて、「私は子育てに一生懸命だから」とか、「子育てと仕事に一生懸命だから」とか、「自分のやりたいことに一生懸命だから」といった考え方を「活躍」を結びつけてイメージする人は少ないようでした。この会議で皆さんが、女性の活躍と言うと、どのようなイメージを抱いて推進して行こうと思われているのかという点も、気になっています。

その中で特に出てきたのが、これまで踏襲されてきた男性社会の中と同じような活躍を求められても、難しいと思います。子育てもそうですし、介護であるとか、女性が担っている社会的な役割というのがすごく重要で、責任も重く、たくさんあります。

こうした役割がある中で、今まで男性がバリバリ働いてきたように、同じようなことを求められても、限界があると思います。実際に働こうとすると待機児童ということで阻まれてしまいます。その待機児童というのも、働き方が男性の働き方を中心に考えての待機児童、保育所施設、放課後児童会施設となっているので、根本の部分から議論を始めなければいけないのではないかというのが、周りの女性の意見でした。

村松尋代委員

私も企業の経営陣としていると、いろいろ皆さんに質問をされたり、聞かれたりします。女性活躍促進法というのが出て、300 人を超える大企業では、女性管理職比率などの目標を設定することなどが義務付けられています。私どもの会社は 100 人弱ですので、義務はないけれども努力はしなければならないということですので、女性活躍促進について、何がどこまで達成されればいいのかなど、疑問があります。

女性の活躍促進に対して、子どもの視点から考えてみてはどうでしょうか。村田委員が言われたような、実際に子育てをしながら働いている家庭にいる子どもたちは、今年生まれて 30 年後は 30 歳です。30 歳になったときに、育ってきた家庭環境を踏まえて、自分も結婚して子どもを生んで、どのような家庭を築いていこうかと考えるだろうかというところまで思いをめぐらせてはどうでしょうか。これから生まれる子どもたちにとって 30 年後の良い姿を見せなければいけないというのがありますので、そこで今、国が言っている「働

き方改革」は、まさしくそのとおりだと思います。浜松市で、女性の活躍についての定義などをまとめ、こんな形ができましたという発信ができるといいと思います。

働き方改革について、女性が働くためには男性の働き方を変えなければいけないと思っています。

弊社の例を申し上げますと、働く意義として、来年から総務の方、50 代の方ですけれども、管理職にしようかなと考えています。取り組みとして育児休暇があり、その後、働きにくくなって雇用されなくなったなどの例がありますが、私どもも今の労働法で朝 9 時から 4 時まで 6 時間でも正規でということで、まず 1 人その女性を推奨し、その彼女がしっかり仕事ができていれば、次から次へと子どもを産んでも働きやすいような、そんな状況をつくっていきたいと思っています。全社員には有給休暇を取ることをとにかく促進し、市でも県でもやっていますけれども、ワーク・ライフ・バランスの推進もしていかなければいけません。また、私どももお金があったら、会社内の小さなスペースで保育施設をつくりたいと思います。県の支援事業も助成金が出ますが、調べるとなかなか難しいこともあるので、もう少し市でそんなことが、浜松市に働いて住むと女性も働きやすいし、子どもも育てやすい、そんな市になったらいいなと常々思っています。

ですから今生まれてくる子どもが 30 歳になったときに、どのように思うかということを考え、大きな意味で、人としての生き方とか育て方とか、大きな行政がこれから求められていくと思います。

実際に幼稚園や小学生の子がどのように考えているか。私どものときは家に帰れば母がいたという時代でしたけど、私が働いていますから、子どもは小さいときどうだったのかと聞いてみました。やはりすごく寂しい思いもしたし、自分で何か作って食べなくてはいけなかったとか、細かいことが出てきました。皆さん保育所に預けて子どもたちの気持ちが、みんながみんな同じではないかもしれませんが、家庭の環境も、これから考えなくてはいけないと思います。深いですね。女性が仕事をするということは、様々な分野に関わりがありますで、ぜひ浜松市が、女性が活躍している中で子育てもして、仕事もしてという人がこれだけたくさん出て、さらに家庭が円満といった方が増えていくようになればいいと思います。

管理職をつくるだけが、私は女性の活躍推進ではないと思っています。

山本敏博委員

聖隷福祉事業団は働いている女性が多いです。13,000 人中 9,000 人が女性で、平均年齢が 35 歳です。年間 400 件の分娩を行い、ほとんどの方が 3 年間の育児休暇を取得しています。現実に一般企業がどれだけの対応できるのかというと、企業のほうでなかなか難しいと思います。それはお金の問題も経営的な問題もあるから難しいですが、村松委員がおっしゃっていたように、最近は企業内保育所をどんどんつくりなさい。補助金も出しましょうというから、それをいかにやるかということも考える必要があると思います。

女性に聞くと、個々のケースで全部違うわけですよね。小さい子どもが生まれれば、大きい子どももいるという家庭もあります。子どもを生んでいる方は 2 人ぐらい生んでいるのですが、生まない方もたくさんいらっしゃる。この方々も生んでいただかないと、人口減少とフィットしているものですから、生んでもいいと思っていただける支援をいかにやるかということです。

昨日も NHK で北九州市の取り組みを放送していました。静岡県では長泉町が、子どもを育てる環境、物価、学校の教育などがいいということで、東京からも人が動いているそうです。静岡県の中で人口が増えている数少ない例です。また、子育てについては、小 1 の壁もあるし、小 4 の壁というのもあります。

塾へ行こうとすると、かばんを預かってくれる人もいないため学校から直接塾へ行かなければならないそうです。そこもどうするか。こういったことを一つ一つ、ぜひ推進会議で決めていただいてはどうでしょうか。

保育園の話に戻りますが、浜松市は非常に待機児童に対して迅速に、よその市町村に比べて早めに対応していると思います。ところが調査をすると、保育園に入りたいといっても、いざやりますよというと立地などによっては現実には申し込みがないこともあり、定員数だけの問題ではないところも難しいようです。一つ一つとにかくスピーディーに、浜松市はこのようなことをしたと発信できれば、結構人口も増えたり、働き手も増えたり、いろいろな点が解決するんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

村松尋代委員

長泉町はすごいですね。人口も増えて、長泉町に行きたいという人がいるということです。魅力というか、いろんな意味ですよね。市長のお考えはどうですか。

山本敏博委員

長泉町は子どもの教育も保育園も安いし、施設もたくさんあるということですから、浜松市がお金をそういうところに出していただいて、ぜひ行政と協力して、住み良いまちづくりをしてほしいと思っています。

鈴木市長

難しいのは、長泉町の近隣の市町はものすごく大変ということです。財政格差が著しいので、同じことをやりたいのですが、なかなかできないわけです。サービス合戦をやめてほしい、近隣の市町村は悲鳴を上げているというのが実体です。お金をかければいくらでもできるというのはありますが、これをやっていくと、税金がいくらあっても足りないという話になってしまうものですから、そこをどうやって知恵でカバーするかというのが課題です。

山本敏博委員

企業にも頑張って協力してもらって、法人税などいろいろ払っていただく。そういう形になると思います。

清水位知子委員

まず 2 つ私からはお伝えしたいと思います。先ほどの村田委員の「女性の活躍ってそもそも何だ」というお話に絡めてですが、資料 3 の 12 ページの下に、平成 28 年度の主な取り組み内容で、放課後児童会の時間延長があります。先日、ハローワーク浜松のマザーズコーナーに仕事でお邪魔した際に、岡山県からいらっしゃった方が、放課後児童会の終了時間が早いので会社勤めができないという方が結構いらっしゃいました。夕方 18 時まで勤務だから、迎えに行くと 18 時 30 分を過ぎてしまうということでした。もう学童は終わっているので、預けて働くことができないということを何人かの方から伺いました。時間延長ということが書いてありますので、ぜひお願いしたいと思いました。

岡山県は YMCA がやっているそうですが､そのあたりを考えていただければと思います。それが 1 つ目です。

2 つ目は、今皆さんのお話を伺っていて思ったことですが、女性の活躍とか働きやすいということをずっと考えていると、結局私は男性の方に行き着きます。というのは、私は先日、新津の協働センターに 60 歳から 80 歳までの方がおみえになるということで、来ていたのが全員女性でした。1 人も男性がいらっしゃらなくて、伺ったら皆さんご主人は、亡くされた方もいらっしゃいましたが、「いるけどこういう集まりには出て来ない」ということでした。

聞くと 70 歳の女性がパートで介護施設などに行かれているケースが多いのですが、意外と 70 代でもパートで働いている女性がいらっしゃいます。男性で定年退職を迎えた方はまたすごく元気です。先ほど創業支援者数の説明がありましたが、伺いたいのは、創業支援者数というのは、何歳ぐらいの方が多いのかなということです。60 代の人は支援してもらえないのでしょうか。すごく男性の方お元気なので、雇用創出として、何か魅力を拡大すると、働きやすいまちということになるのではないかと思います。

私は個人事業をやっているものですから、企業で男性が働いてらっしゃるところに、皆さんにお伺いしてみたいと思いますが、高齢社会にもなりますので、その点とどうしても女性の活躍とリンクすると感じているところです。

浜松市企画調整部次長　松永

先ほどの資料 3 の 12 ページの時間延長のところ、時間延長を考えていただきたいということですが、基準となっているのは 18 時 30 分までとなっています。

それからもう 1 つ、創業支援者数ですが、これは延べの数を基準としていますが、年齢層については申し訳ございません、資料を持ち合わせていません。

村田亜希子委員

学童の話が出たので、時間延長ですが、18 時 30 分になっているのが、旧浜松市の 70 校ぐらいのうち、2 校です。それが 2 年前にこういう動きをしたいと言ってから、今年は 1 つも増えていません。それ以外の浜北区、天竜区は 6 時半、7 時までやっています。

お話を聞くと行政の方も、教育委員会に訴えてからすごくご尽力していただいて、学校の空き教室を使用するなど考えてくださっていますが、日中の学校の子どもたちの活動もありますので、学校の中で放課後児童会をやるというのは、限界があると思います。

先ほども「目標の設定の仕方をきちんと再考する」と説明がありましたが、放課後児童会のことだけではないと思いますが、私が見ているのが放課後児童会関連なので、新しい考え方というのを取り入れてほしいと思います。今までの踏襲をしていくのも、伝統も大事かもしれませんが、新しいものを取り入れてみる勇気というか、せっかくチャレンジするということをここでうたっているので、浜松市自体もチャレンジの方向を目指してほしいと思います。

山本敏博委員

保育園も私ども朝 7 時から夜の 7 時までやっています。これは自分のところの看護師さも、保育環境が整わないとなかなか患者さんのところに付けないというのはありますが、現実には、保育園の待機児童から今度は小学生の段階で、先ほど小 1、小 4 も言いましたが、学校から帰ってきたときにいる場所がありません。保育園のほうで、少し大きくなっても学童を、年齢を延長というか、居場所をつくるといことを、私ども考えようかなと思います。私のところだけでなく広がっていけばいいと思います。

そうすれば保育園はかなりの数あるわけですし、地域ごとにあり、必要なときにあるわけですから、会社の近く、もしくは自宅の近くの通勤路の途中の保育園に預けることができるのではないでしょうか。この辺は児童館が少ないですよね、関西へ行くとかなり児童館があります。保育園の横に児童館をつくるか、保育園がもう少し対象年齢を延長するということと、最近は小学校などがいろいろ空いていますから、そういうところを運営してもらうなどすると、保育園と幼稚園と小学校の学童というのが、一体で連続してやれると思いますので、お願いをしたいし、頑張ってほしいと思います。

原田博子委員

私たちはハローワークとともに各区役所で、浜松マザーズといって、働きたいお母さんたちや、育休中のお母さんたちの相談に乗っています。それから 8 月にウェブサイトから、働き続けたい理由は何ですかというミニアンケートを実施しました。かなり反響がありまして、まだ分析中ですが、働きたい理由は、やはり家計を支えるのが必要、自由に使えるお金が欲しい、将来に備えて貯蓄をしたいというような回答が、働いている人も、働いて

いない人も共通で答えてくださいました。その中であなたが働く際に障壁がありますかという設問をした場合に、「ある」という答えがかなり出ています。その中で 1 番の答えは、働いていない人も子どもの預け先でした。

先ほどのマザーズコーナーでお話するときもそうですが、女性の活躍推進というと、働いている女性ばかりが活躍しているというイメージがあるようです。そこに来る女性たちは専業主婦も多いのですが、「働かないといけませんか。すごく苦しい」ということをおっしゃる方もいます。

だから PTA 活動であろうが何であろうが、女性の活躍推進というのは、どのような形であってもいいと思うので、選択できる、選択肢がたくさんあるというところを市としては示すことにより、ストレスフリーになって、相乗効果はあるのかなと思います。預け先の話になりますが、働いている人たちは、病児、病後児とか、職場の理解がもっとあるといいというような答えがだいたい出てきています。働いていない人たちは、待機児童の問題がメディア関係でよく出ているので、預けられないのではないかと、先々のことばかり心配しているようです。

最近は、先ほどのお話にもありましたけれども、企業主導型保育事業というのが厚労省から出てきています。浜松市もかなり認可保育園を増やしていますが、でも 1000 ちょっとですね。それでも追いついていない状況になっています。特に浜北はかなり多い状況です。

働きたい方の相談に乗っていると、専業主婦の方々が資格も持っておらず、働きたいとなってくると、介護やサービス業が多くなり、求人もそのようなところが多いわけです。

製造業がある浜松市のなかで、工場がみんな海外へ出て行ってしまった中で、増えているのがサービス業と介護という関係ですので、それで働こうと思うと学童保育とか、認可保育園の時間ではマッチングできないところがあります。

企業主導型の保育所の中には、今後また企業さんが出てこられると思いますが、それは自由に設定してもいいという話になっているはずですので、できれば企業の方々が、企業内託児所というか、保育事業に進出されるのであれば、時間をいろいろ設定していただくなどできると思いますので、企業さんがもうちょっと考えるような、保育事業に手を出していただければ一番いいのではないかと、考えています。

岡部比呂男委員

企業が保育事業に進出というと、ちょっと違ってくると思います。従業員のための福利厚生をやるのであれば、それなりの枠組みができますが、事業でやるというのはハードルが上がってしましします。

原田博子委員

事業主導型の保育事業というのは、福利厚生のお金を使ってという意味です。

岡部比呂男委員
　そちらですよね。

原田博子委員
　そうです。それに特化してくださいというわけではないです。

岡部比呂男委員
　個人の考えですが、むしろ企業内の従業員の保育に割り当てて、そちらでいけば既存の保育園に相対的に空きができるので、そこに来ていただくほうが、たぶん企業にとってのハードルが低いですよね。
　企業が事業でとなると、やはり法律のことであるとか、いろいろリスクもありますので、そこはいろんなやり方があると思います。

原田博子委員
　地域の人に対しても何か。

岡部比呂男委員
　企業が地域に開放すると、それは事業になってしまうので。

山本敏博委員
　保育を事業として行う株式会社は最近増えてきました。うちも自前でできない事業所内保育は、そういった会社に頼んでいます。

原田博子委員
　逆に言うと、女性の求人を取りたいと思えば、企業内の託児所をつくれば、わりといい人が来るのではないのではないかという考えです。

杉田光秀委員
　静岡銀行です。実はその件、ご存知だと思いますが、去年 1 年間、静岡銀行では静岡市内に企業内保育園を持っています。浜松にも女性従業員が数百名おりますので、できないかということを 1 年間考えました。やはりハードルは非常に高いです。インフラの問題、保育士さんをどう確保するのか、ほんとに難しいです。
　では、オペレーションを外にお願いした場合に、どれだけ費用がかかるのか。年間、数千万のお金が間違いなく企業から持ち出しになります。それに耐えうるだけの企業がどれだけあるかというところが課題であると思います。
　もしこれを促進するのであるならば、相応の市からの援助や、インフラでの協力や、保

育士の手当など、そういったものがない限りは極めて難しいです。
われわれも静岡市でやっている保育所というのは、地元企業数社と共同で運営していますが、相当の経費がかかっています。やるのであれば地方公共団体の協力がなければ、なかなかベースには乗らないというところが、今のところの現状だと思っています。そこをぜひお願いできれば、少なくとも全国モデルに先駆けて、浜松市はこのようなことをやっているということであれば、今の段階では差別化になると思っています。

浜松市企画調整部長　山名
国のでも要件の緩和をしまして、企業内で保育ができるような、今までよりもかなりやりやすくはなっているそうです。お金の面は置いておいて、われわれも制度を詳しく事業所の皆さんにお知らせして、関心を持っていただき、ご協力いただけるようなところを増やしていくことが先決と思っています。

村松修委員
今年度、国が 5 万人規模で企業型の推進をするというので、私どものところでも、来春に 2 か所やりたいと申請を出しているところです。60 人定員で 2 か所、時間も幅を広げてというように考えなければいけないと思っています。5 万人規模で政府が募集しているのですが、6 月の締め切りで応募は全国で 1,500 人ぐらいです。たぶん 8 月も同規模だろうと言われているようで、あまり集まっていないというところに課題があるのではないかと思います。企業側も踏み出せないでいるところが、まだまだあるのかなと感じています。
インフラに対しても補助が出ますし、運営費に対しても補助が出るというので、制度は相当充実をしてきて、変化はしてきていますので、うまく乗りたいなと思います。5 万人という規模が、首都圏などの大都会でたくさん応募が広がると、それも課題かなと思うので、浜松でもっとできるような、何か浜松型というものを考えていただけるといいかなと感じています。

鈴木恵子委員
女性の活躍ということで、子育てのことも同じだと思います。私たちは NPO 法人で人を雇用しています。1 人とても優秀な女性がいて、結婚して 1 歳の子どもがいるので、保育園に預けており、どうしても預けないと仕事ができないということでした。うちの NPO でその女性も雇用をしました。本当ならば村松委員がおっしゃったように、企業の職場の中に保育園があればいいと思いますが、NPO ですからそういうことができず、もう子どもを連れて来ていいよということにして、復帰してから 3 か月ぐらいから県の施設ですが職場に子どもを連れて来ていました。もちろん保育士はいませんので、みんなで子どもを見てということで仕事をしてきました。その中にはアルバイトの大学生もいたりして、その大学生もときどき 3 か月、4 か月の赤ちゃんを抱っこしながら、パソコンを打ちながら仕事をし

ていました。
1 歳になったので保育園に入ったのですが、保育園に入ったのでフルタイムで働きたいということでした。NPO としてはお給料のこともあって、NPO でフルタイムは難しいと伝えたら、就活しますということでしたが、結局まだ若いので、2 人目が生まれる可能性があるということで、結局はどこの面接も受かりませんでした。
そういうことがあったので、すごくいい優秀な人材ですので、女性がそういうことで就職できなかったり、フルタイムで働けなかったりというのは、残念だなということがありました。
もう 1 つは、女性の活躍イコール男女共同参画がまだまだ遅れているということだと思います。私たちの NPO は自治会連合会の事務局をさせていただいていますが、自治会長さんの中に、女性は浜松市内にたぶんいないのではないかと思います。連合会の中にもちろんいません。浜松市内もいないです。
働く女性の活躍ではなく、地域の中の地域活動をする中に女性が入って来る。男女共同参画ができているということは、自治会長さんの半分は男性で半分は女性であるのが、本当の男女共同参画ではないかと思います。職場で働くことだけではなく、地域の中でも活躍できるということが、受け入れられなくてはならないと感じました。

林寛子委員
女性の活躍という言葉で、不愉快になる女性がたくさんいるというので、要するに女性の活躍という言葉の裏に、女性を労働力として見るとか、男性と同じように働けとか、そのようなイメージを感じて、アレルギーみたいなものが出るのではないかと思います。
鈴木委員がおっしゃったように、今まで行政の場にも、企業組織の中にも、地域社会にも、女性の目があまり活かされてこなかった時代がずいぶん長くあって、また女性の声が届きにくかったということは言えると思います。それが今の、子どもを生み育てにくい社会になっていると思います。そこに女性の目を活かして、女性の声を届かせるということが、女性の活躍だと思えば、そんなに不愉快になることではないと、思います。私自身は女性の活躍というのはそのように捉えています。そう考えれば、すごく前向きになれます。
だから別に働かなければいけないということではなくて、地域社会や行政の場や、また企業の中にも女性の目が活かされ、声が届くというようなことが、女性の活躍であると、主体的に捉えればいいのではないかと考えます。浜松市の女性の活躍というのはそのような考え方でいいですね。

浜松市長
はい。

林寛子委員

労働力となって働けということが、イコール女性の活躍ということを指しているのではなく、私が申し上げた考え方でいいそうです。

藤本和彦委員
1 つの事例として、銀行が土日に営業するかもしれないという動きがあります。なぜかと言うと、日中銀行に行けないお客さんが多いので土日に営業しましょうというものです。そうすると今度は経営者としては、土日に従業員をあてがわなくてはいけなくなります。
ここで、議論を聞いていて私が思うのは、子どもが中心なのか、会社が中心なのか、女性が中心なのかというときに、子どもではないかということです。30 年後の地域をつくる子どもたちをつくるために、私たちはどのようにするか。
話を聞いていると、短期的にでも子どもたちが路頭に迷わないように環境をつくっていくことが必要ではないかと考えます。過渡期ですので、女性も進出したいという実現をさせてあげるために、何か工夫が必要ではないかと思います。
私は専門家ではないのですが、浜松には 60 歳以上の、メーカーで海外から帰って来た方が結構時間があります、そういう方々にもっと活躍いただける、そして空き地や不動産をうまく使っていただけるような環境で、子どもたちを短期的にでも見ていただけるような仕組みができないかと思っています。
今の女性の活躍という言葉を聞くと、確かに誤解を生むかもしれないですけど、おそらく、私たちが考えているのは、女性の方もっと意見をくださいということではないでしょうか。今まで男性社会で行き詰まったところを、ぜひ女性の力を借りたいというところもあると思います。これが浜松市の中で、多文化共生・創造都市と言っている中に、外国人と浜松市ではなくて、もちろん多文化という中には、私は女性も男性も、そしてさらにもう 1 つ世代というのも含まれると思います。
こういった世代がミックスでオープンに語ることができる場が、どこでもできるというのが、浜松の良さではないかと思っています。
現実的なことを言うと、女性が働かなければいけないという方もいると思います。なぜならば、正規職がすごく少なくなっています。時給 1,000 円で単純計算したら、月に 15 万です。男性が 15 万しかないのに、女性が専業主婦でいられるかというと、稼がないといけないとなります。労働の柔軟性がもっと自由に起これば、安定した未来が語れるような時代が来るのではないかと思っています。答えは何もないのですが、私の職場は少ない従業員ですが、休みたいという方がおり、休んでくださいというふうにはやっているのですが、この少人数での取り組みだけでなく、少しでも動きになればいいと願っています。

増田洋介委員
労働の柔軟性という話が出ました。先ほど定年後の男性はもっと働けというような話もあったと思うのですが、現実には定年後、体力的にはかなり落ちているので、そういう仕

事は向かないと思います。そうすると何か頭を使う仕事ということになってくると思うのですが、いままでの経験を活かしてそれを活用できるような職場というのは、なかなか見つけにくいところがあります。では創業すればいいかというと、先ほど創業支援者数の中で、60、70 代も対象に入るのかという話がありましたけれども、過去の実績で言うと非常に少なく、ほとんどいないのが現実です。

1 つは年金だけの収入があって、創業しようといったときに、創業のための投資にどれだけリスクが負えるかという問題です。若いうちは失敗してもリカバリが利くかもしれませんが、60 代になって何か失敗すると、取り返しが付かないということで、リスクに対して臆病になるというのは当然だと思います。

岡部委員がおっしゃった起業の相談に来る人も、サービス業が非常に多いというのはそこで、初期投資が少なくて済むわけです。極端なことを言えば自分の家で手軽にできるというところに希望が集まってきて、何か投資が必要、特にものづくりで商売しようという方は、割合としては少ないです。理由としては、初期投資が必要だからです。ここが何らかの形で解決されないと、男性の創業数も増えないでしょうし、定年後の男性が働くというのも増えてこないのではないかと思います。では創業のためにお金の支援をすればいいかと言うと、回収できるかという話にもなりますので、非常に難しいと思います。

企画調整部長　山名

2 つ目のテーマ「女性の活躍推進」ということで、さまざまなご意見をいただきました。かなり深いなと感じました。

今日の進行ではもう 1 つテーマがあります。まだご意見がある方がいらっしゃるかもしれませんが、次へ進めさせていただきます。

最後の 1 つですが、「浜松独自の魅力を活用した取り組み」です。前回の会議で、浜松というのは大都市と同じ価値観や指標ではなく、地方都市独自の魅力を創出していくことが重要であるというご意見をいただきました。市の魅力とはどのようなことなのか、またそれを伸ばすためにはどのような取り組みが必要なのか、さらにそれを発信していくためには具体的にどのような方法が効果的なのか。行政でも取り組んではいるものの、まだこれといった効果と言いますか、足りないところがありますので、ご意見をいただければと思います。

村田亜希子委員

子育てのまっただ中なので、マッチングが非常に足りないと感じています。浜松市のいいところは、人柄の良さや、環境面をよく言われます。海があって、湖があって、川があって、山があって、こんなに 1 つの市に自然豊かなところはないと自分の娘にも言っています。ちょっと車で走れば海が見えて、ちょっと北のほうへ行けば山に行けて川遊びもできる。こんなところないよと娘に伝えています。環境が良すぎて、浜松市民は逆に、その

良さに気づいていないところがあるのではないでしょうか。でも良さを拾い上げて伝えてくれる人はたくさんいらっしゃいますし、他市の行政の方にも、「浜松市っていいよね。人材がたくさんいていいよね」と言っていただいたことがありました。そう思うと保育園の問題がすごく大きいですけど、私が保育園を利用できたり、子育て支援広場で相談できたりするのも、今まで積み重ねてきたものあるから、問題がある中でも、子育てを充実してできていると思います。

何かをしたい気持ちのある人はたくさんいて、お母さんたちの中にもいると思います。創業支援の話題で、自己実現ということが出ていましたが、保育園にも入れない、ただ家で子どもと一緒にいるだけでなく何かしたいのだけど、何かできないかと思ったときに、初期投資のないもので、お母さんたちやご年配の方を癒やしたいというような思いから、創業をしてみおうという思いが心の中にある人たちはいると思います。その思いを形にして成果まで持っていけるようなマッチングがあればいいと思います。そういう場所に行けば話をきちんと聞いてくれて、否定するのではなく、例えば男性目線で、お金稼げないのならやっても無駄だよって言われたら、そこで落ち込むと思います。子育てのいまの時期に十分ためて、子どもが落ち着いたらそこからばりばり稼ごうと思えるような、アドバイスができる場所があればいいと思います。また、保育園に行ったら、「同居しているなら保育園に入れません」と言われたら、落ち込むわけですよね。どうしたら保育園に入れるか、どういう子育てがしたいか、どういう働き方がしたいかというところを、保育園の業務だけでなく、すべてマッチングできるようなサービスというか場所というのが、まだ不足しているのではないかと思います。質を求めていける時代でもあると思うので、そのあたりでニーズを感じています。

岡部比呂男委員

そういった意味で、起業家カフェが役に立っています。会社をどのようにつくればいいのかとか、そういう相談には乗っていますし、コーディネーターには女性もいます。それはそれでいいのですが、それとは別のところで人材を外から持ってきたり、雇用を増やしたり、そちらも必要ですねということです。もっとあったほうがいいのかもしれないと思います。

村松修委員

浜松はすごく素晴らしいまちなので、ぜひ浜松へ来ていただきたい、交流人口を増やしたいという流れは非常に大切なことです。市長がこの前台湾へ行かれて、向こうと交流協定を結んだという、それが非常に大切ではないかと思います。インバウンドは外国から来られるのもインバンド、国内から来ていただくのもインバウンドですけれども、アウトバウンドについてもやらなければいけません。市長は 2 年前にも台湾に行かれていますし、瀋陽などにも行かれていますけど、施策の中にインバウンドだけではなくアウトバウンド

で出て行くという中身を入れていただけるといいのではないかというのが一点です。

健康寿命というのが戦略計画に出て来ますが、非常に大切なことですし、浜松の特色だと思うのでこれを伸ばしていくといいと思います。それには健康づくりで運動をするなど言われますが、本当はそれだけでなく、心と体の健康を考えてはどうでしょうか。子どもはもちろん、お年寄りの方は体を動かすだけではなく、食事をしっかり食べることもしなければいけません。また、社会とのつながりをつくることもしないといけないとよく言われていますので、健康寿命という施策の中に、体を健康にしましょうということだけでなく、心の健康もそうでしょうし、食事についても盛り込んではどうでしょうか。食事ができなくなると、弱ってしまうところがあるそうです。この前、中日新聞の日曜版に出ていましたが、かかりつけの歯医者さんがいる方は、かかりつけ医がない方と比べて寿命が 3 年ぐらい多いという記事が出ていました。そのとおりじゃないかと感じているので、健康寿命という中で、様々な施策を入れていただけるといいと思います。

山本敏博委員

浜松はよその市と比べて公園が少ないと感じます。高齢者が集まる場として、子どもの遊び場として必要だと思います。私もそんなには知りませんが、富士などは、かなりいい公園がたくさんあるようです。これによって高齢者の方も、いろんな友人とお話し合いもできるし、またしゃれたレストランなどが近くにあると、文化的な潤いというものが出てくると考えます。

住みやすさも含めて環境整備でぜひ公園を、この街中もほとんどないですよね。ぜひお考えいただきたいと思います。

林寛子委員

公園という話が出たものですから、自然が豊かな浜松ならではの独自性を活かすということで、フラワーツーリズムなども考えてはどうかと思います。塚本こなみさんがやってらっしゃるフラワーパーク、あそこもすごく人気が盛り返していて、フジの花を見に海外からもいらっしゃるそうです。それこそ市長が行かれていた台湾からのお客さんも多くいそうで、今ある資産を活かすという意味では、フラワーツーリズムのようなものを発信していくというのも、可能性の 1 つではないかと思います。ここにも何か新しい産業が生まれる可能性があるのではないかと思います。

それからテレビを見ていましたら、長野県の伊那市山間部で、薪ストーブメーカーが新しくできていて、その近くの人たちに薪も提供しているそうです。間伐材やその他いろいろな材木を切って、配達をしているそうです。そして薪ストーブも売って、薪も近くの山から切ってきて売っているということで、その地区の 1 割近くが薪ストーブで冬場の暖をとっているそうです。

それも地域に根差した新しい産業ではないかと思います。放ったらかしになっている山

が多い中、若い林業従事者も増えているという話が取り上げられていました。
浜松もご存じのように、森林資源が豊富にあるわけですから、試しに田舎暮らしができるタウンと言うか、田舎暮らし特区のようなものはどうでしょうか。薪ストーブも設置されていて、薪も供給されていて、ちょっと面白い森暮らしができますというようなものをつくって売り出していってはどうでしょうか。高齢社会ですし、薪ストーブで暖をとっていると、経済的にはエコではないかと思いますので、そういう可能性も探ってはどうかと思いました。伊那市に、田舎暮らし居住者を呼ぶところがあるということなので。ここにも田舎暮らしお試し住宅があってもいいのではないかと思いました。
天竜の森ですとか、水窪のお茶栽培も後から指導者が来て学べるようになったと思いますので、農業もやりつつ野菜も作りつつ、薪ストーブで生活するという、新しい田舎暮らしを提案するというようなことも、面白いと思います。

前田剛志委員
林委員がおっしゃったような、森暮らしや田舎暮らしができるような場所ができたら、真っ先に自分がそこに乗り込んでいきたいと思います。
浜松独自の魅力については、私も他県から移り住んできて、風光明媚なところ、森もあり山があり海もあってというのはあると思います。最初の話題の順位付けの話につながるかもしれませんが、生活の優先順位として第一に仕事、お金、経済というのが来ると思いますが、周りの中山間に移り住んで来た若者を見ていると、必ずしもそうではないです。
「仕事があるから浜松に来ました」とか、「仕事があるから天竜に住みました」という人はほぼ皆無です。もっと違ったものを求めて、田舎に若い人たちが入ってきているという実例があるというのもまず1つあります。
山に住んでいて、人口が少ないのでどうしても声が届きにくいです。大きいまちの人や、多いところの声が優先されがちですが、どこでも経済を優先しようという考えはあると思います。他の市町村でも仕事を創出して、人が来る状況をつくるということをしていて、それは反対ではないのですが、これからの若者たちの流れを考える上で、山暮らしなどに視点を置いてはどうでしょうか。市としても経済優先ではなく、例えば森暮らし、浜松のシンプルな生活を応援しますといった打ち出し方を、旗を掲げることができたら、その旗を見て外から若者たちが来ることがあるのではないかと思います。
浜松市が何かしら、他の市町村とは違うという旗を掲げられるか。それを見た若者が、浜松への移住を考えるという流れがつくり出せると理想ではないかと思います。そのような旗を掲げてみていただけないでしょうか。

石田伸吾委員
浜松は、衣食住、生活するという環境はものすごく恵まれていて、静岡県に言えることだと思います。それに医療、これも非常にたくさんの病院があります。私は静岡市出身で

すが、浜松市は救急医療分野も含め非常に恵まれていて、医療の銀座と言われているぐらい、医療技術を持った病院もたくさんありますし、設備を持った病院もあります。健康寿命、健康で生きて行く上では、非常に恵まれていると思っています。

労働については、生活をするために必要です。大きな企業が海外へ出てしまったといえ、浜松市内には B to B の非常に優秀な企業があります。その会社が知られていません。社員たちも、子どもに「お父さんどこで働いてるの」と言われて、ここだよと言っても分からないという状況です。例を挙げると、広告を打った会社があります。そうすると名前が知られるようになり、社員の士気も上がっていきます。そのような B to B の企業がたくさんありますので、焦点を当てることにより、就職する学生も増えて戻ってくるかもしれません。

学ぶという点について、木村委員もいらっしゃいますが、静岡大学工学部があります。この学部が何をしているかというのが知られていません。取材などで電子工学研究所に話を聞いている中では、東大や京大よりも優れた研究をされている部門があります。こうしたことをもっと大きく発信して、学生を静岡大学工学部に入れていってはどうでしょうか。

政令市における学生の数を調べてもらうと分かると思いますが、浜松は非常に少ないです。1,000 人あたり 1.2 程度ではないでしょうか。若者が少ないです。静岡県は東京、名古屋、大阪が近いですから、大学については三大都市圏へ出ていってしまいます。出て行った優秀な人たちは帰って来ず、そういった状況が悪循環を生んでいるのではないでしょうか。

もっと学ぶというところを、施策としていってはどうでしょうか。例えば、先ほどの女性が働く環境の中にもありましたが、育児、学ばせるということが非常に大変になっている状況です。小中は義務教育と言いながらも、高校へ行くこともほぼ義務教育、大学も義務教育に近くなっており、生活への負担が大きなものになっているのではないでしょうか。そこを少し緩和して、浜松市は教育に優しいということを含めて、何かできればいいのではないかと感じています。

木村雅和委員

静岡大学には東大に負けない技術があるという話がありましたので、1 つだけご紹介します。オリンピック、パラリンピックも始まり、NHK で「8K」と言っていますが、8K の技術は、静岡大学の技術です。8K の画を映せるのは静岡大学のカメラだけなので、NHK の言う「8K」というのは、静岡大学を意味しています。

ご存じかと思いますが、100 年ほど前 1926 年に高柳健次郎先生が初めて、いろはの「い」の字を映し、テレビを発明しました。それからほぼ 100 年たった今、8K の技術も静岡大学の技術です。たぶん東京オリンピックの放送は、静岡大学のカメラでされるだろうというところです。ぜひ覚えておいていただきたいと思います。

カメラだけでは映りませんので、現在は 8K のティスプレイが 1 台 1,600 万円するそうで

す。東京オリンピックまでの間に、それがどれだけ安くなるかわかりません。静岡大学もカメラは持っていますがディスプレイがないので、4K のディスプレイを 4 枚並べて 8K にしていますから、実際にはなかなか大変だと思います。

石田委員からお話がありました。静岡県の高等教育機関の数が、全国でワースト幾つぐらいであり、静岡県の高校生は、静岡県にある大学で吸収することが、できない状況です。ですから東京や名古屋に行くことは当然です。

その中で特に問題だと思っているのは、理系の女性です。理系の女性の進学先としては、浜松では聖隷クリストファー大学と浜松医科大学があります。静岡大学ももちろんあるのですが、どちらかと言うと静岡大学は油まみれになるような学部があるので、女性にとっては非常に進学しづらい部分があります。

これからは女性も油にまみれて機械をいじるのも、かっこいいのではないかと考えます。新しいキャリアとして楽しいのではなでしょうか。地域として理系の女性の新しい教育を浜松が新しく考えてみるというのは、素晴らしいのではないかと思います。

市長もあちらこちらで言われていると思いますが、県庁所在地でない政令市で医学部と工学部の両方があるのは浜松市だけ話です。同じ政令市でも静岡市では両方ともないので、浜松市の強みであると思います。県庁所在地でないところで、医学部も工学部も両方持っているのは浜松市だけですので、片方の立場の人間として、教育のことだけでなく、産業の部分についても意見を述べたいと思います。大きな企業を支援するというのではなくて、なるべく小さな企業、できればベンチャー企業の支援が重要であると考えます。多くのアントレプレナー（起業家）が育ったまちであるならば、小さいところを大きく育てることが重要であると考えます。

シリコンバレーでは、インキュベーションではなくて、アクセラレーターと言うそうです。それを浜松の新しいビジネスモデルとして、市や会議所や、あるいは一般の企業、大学、みんなで新しいアクセラレーター浜松モデルというものができれば、浜松に行くとベンチャー企業が育ちますよというのが、1 つのモデルになるのではないかと思います。

もう 1 つ、「第 2、第 3 のノーベル賞受賞者の育成」についてです。これはかなり浜松市の協力を得ながら実施していますので、浜松の大きなモデルにできると考えます。第 2、第 3 のノーベル賞を取るような子が、ここから育つことも重要ですが、このようなモデルを見て、世界中の人が自分の子どもを浜松で育てたいと思うようなまちになることが重要ではないかと思います。

産業だけでなくて、子育てのこともありましたが、すべてのことが浜松は魅力的で、「子育ては浜松でしたいよね」と思えるようなまちになれるかどうかが、これからの浜松には重要なことなのではないかと思います。

村松尋代委員

ここで初めて 8K のことも聞きましたし、私たちでさえ知らないことがたくさんあるので、

市民の皆さんに知ってもらうため、浜松の良さを知る必要があると感じました。

井伊直虎で注目されてきていますので、私たちも興味を持ってはどうでしょうか。市役所の1階に直虎のパンフレットがありましたので、ここでしか手に取れないかと思い持って来ました。これからますます増えていくと思うのですが、見られるところがないのが、実情ではないかと思います。

女性が油まみれになる学部へ進学することについても話がありました。静岡文化芸術大学で若い学生がつなぎを着て、作業しているところを見たことはありますか。実際に見て、ものづくりのまち浜松で、若い女性のこのような姿を少しアピールする場があってもいいと思います。

国内外を問わず、浜松を一歩出たときに、どのようにして浜松をアピールできるかが重要であると思っています。自身が浜松人であるということを誇りに思い、浜松市民の代表であると考え、浜松の良さを伝えていきたいと思います。

転勤者の方が浜松に来ても、2年か3年でまた転勤してしまう方が多いので、そうした方が浜松にいるうちに良さを伝え、別の地域に転勤した後も浜松は良かったと言ってもらえるように、市民一人ひとりが浜松のことをもっと伝えていけばいいと思っています。

今はものづくりだけではないというのが浜松市ですが、そこの土壌は重要ですので、世界に誇る企業もたくさんあり、次世代につながっていくように、「研究拠点のまち浜松」というキーワードも入れてはどうかと思いました。ノーベル賞の話もあり、フレーズも考えてきました。様々なブランドの力も利用しながら、市民の皆さんに広めていけばいいのではないかと思いました。

来週の土曜日と日曜日に浜名湖アートクラフトフェアがあり、市長にも開会式に出席してもらいます。全国から 334 の作家が集まります。4 万人ぐらいの来場者があり、今年で10年目にあたりますが、木材やガラス工芸など、様々な作家が集まります。10年続けたおかげで、7件ぐらいが地域でガラス工房をつくったり、革のバッグのお店をつくったりなど、浜松に住む方が増えたという話を聞きましたので、イベントの力も大きかったのではないかと自負しています。まず浜名湖に来ていただいて、浜名湖の良さを知っていただくということがいいことではないかと思います。

市長がトップセールスを積極的にしている影響なのか、先日NHKのBSドラマを見たら、浜名湖の料亭のおかみさんが出て、浜名湖や浜松などの名前が出て来たので驚きました。ゆるキャラ（R)の家康くんから始まり直虎と、ずっと浜松が注目されていますので、プロモーションを続けていくことは、重要であると思います。

浜松市企画調整部長　山名

ご意見ありがとうございます。まだまだご意見をお聞かせいただきたいところですが、時間の都合もございます。ご意見につきましては、させていただきます。

最後に市長からご意見をお願いします。

浜松市長

皆さんからいろんなご意見が出て、いろいろ考えさせられるところがありました。最近の問題意識は、浜松だけで考えていると限界があるというものです。浜松がこれだけ発展してきたのは、外から来た人の活躍も大きいと思います。山葉寅楠さんもそうですし、浜松ゆかりの企業と言っても外から来た人が起業したケースもあります。本田宗一郎さんは地元の出身ですが、市外から来た人もいるということです。

最近のベンチャー企業の創業者も、浜松出身ではない人が多いです。このような外からの力をどのように誘致してくるかが、私の課題です。様々な仕掛けも行っていますが、うまく外からの人材と内からの人材が連携して、力になればいいと考えます。

もう 1 つ、浜松の良さをどのように売り出していくか、一言でどのようにアピールするかをいつも考えています。先日フューチャーセッションというものに出席して、ブレインストーミングをして出た結論が、「日本で一番仕事とレジャーが近接したまち」、「ビジネスとレジャーが近接したまち」というものでした。先ほど村田委員から、1 時間以内にあらゆる自然があるという意見をいただきました。ベンチャー企業の市外から来た人も、同様の意見をいただきます。その中で私もなるほどと思ったのが、自然が豊富なことに加え、その中心に 80 万の都市があるという点です。雇用も確保でき、都市的機能も完備している。豊かな自然の中心に都会があるという都市はあまりないそうです。確かに考えてみるとそのとおりだと思いました。

浜松をどのように PR していこうかと考えていまして、私は浜松生まれ浜松育ちですが、こういったことはむしろ外から移り住んで来た方のほうが鋭敏ですから、ぜひ皆さんのご意見も聞きたいと思います。

厳しい都市間競争の時代であり、あるいは都市間連携の時代でもありますので、われわれも負けないように頑張っていきますので、引き続き皆さんのお知恵とお力をお借りしたいと思います。

4　今後のスケジュールについて

浜松市企画調整部長　山名

最後に今後のスケジュールをご案内させていただきます。

浜松市企画調整部次長　松永

資料 4 をご覧ください。9 月のところに、本日の第 2 回推進会議が記載れており、検証と次年度施策の協議をさせていただきました。有識者会議については、次回は 3 月に予定していまして、次年度当初予算なども確定していますので、次年度の取り組みについてご紹介させていただきたいと思っています。また、本日いただいたご意見の中で、指標などの考え方について改めたところがありましたら、ご説明させていただきたいと考えています。

5　閉　会

浜松市企画調整部長　山名

本日予定していました議事は、以上です。長時間のご参加ありがとうございました。以上で、第2回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議を閉会します。ありがとうございました。

（文責：浜松市）